

離島部が抱える課題

1. 少子高齢化の進行

2025年には65歳未満と以上の人口比率が約1対1となる。

〔 高齢者が増加し、医療の提供が今以上に必要 〕

2. 平均寿命と健康寿命(平成22年度)

長崎県は平均寿命、健康寿命どちらも低水準

<資料2> 平均寿命と健康寿命の差

男性

平均寿命(歳)		健康寿命(歳)	
1位 長野県	80.88	1位 愛知県	71.74
2位 滋賀県	80.58	2位 静岡県	71.68
3位 福井県	80.47	3位 千葉県	71.62
全国平均	79.59	全国平均	70.42

43位 長崎県 78.88

45位 長崎県 69.14

47位 青森県 77.28

47位 青森県 68.95

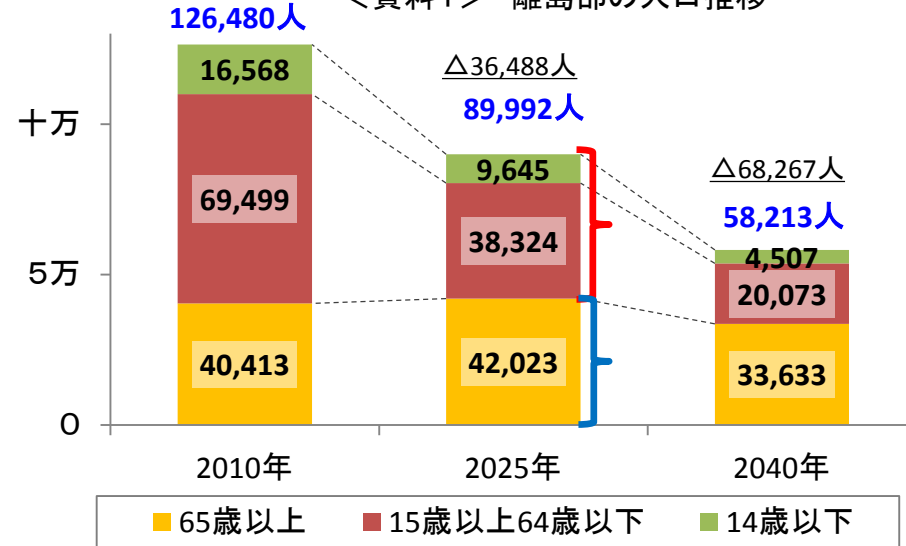
(参照)

平成22年都道府県別生命表の概要(厚生労働省)
都道府県別日常生活に制限のない期間の平均
(平成22年)(厚生労働省)

日常生活に支援が必要となる年数は...

男性:約10年 女性:約13年

<資料1> 離島部の人口推移



(参照)

男女・年齢(5歳)階級別データ-『日本の地域別将来推計人口』(平成25年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

3. 医師の偏在化

離島における医師不足の現状

<資料3> 人口10万人対医師数(人)

本土部	287.5
離島部	155.0

約2倍の格差

(参照)

長崎県移動人口調査(H24.10.1推計)
医師・歯科医師・薬剤師調査



遠隔診察による特定健康診査の導入

目的

離島住民の多くが高齢者であり、今後も高齢化が進んでいく一方で、医師不足も大きな課題とされている。住民が少しでも長く元気でいられるように特定健康診査を積極的に実施し、住民の健康づくりの促進を図る。

概要

離島地域では医師が不足しているため、特定健康診査の項目とされる診察を医師の目視による診察ではなく、インターネット等の通信技術を利用し、本土の医師が遠隔による診察を実施。

離島地域で特定健康診査の実施(出張健診)

看護師による健診項目の実施

- 問診(服薬歴、喫煙歴等)
- 身体測定(身長・体重・腹囲・BMI)
- 血圧測定
- 尿検査(尿糖・尿蛋白)
- 血液検査
 - 脂質: 中性脂肪、HDL コレステロール、LDL コレステロール
 - 血糖: 空腹時血糖、HbA1c
 - 肝機能: (GOT、GPT、 γ -GTP)

本土医師による診察

健診項目データの送付
医師の指示による補助的医療行為

遠隔医療

タブレット等を利用した**診察**の実施

<実施場所>

五島列島・対馬・壱岐

<実施場所>

本土病院

